

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	22223005	研究期間	平成22年度～平成26年度
研究課題名	現代日本における若年層のライフコース変容と格差の連鎖・蓄積に関する総合的研究	研究代表者 (所属・職) (平成28年3月現在)	石田 浩 (東京大学・社会科学研究所・教授)

【平成25年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○ A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>前期の基盤研究（S）（2006-2009年度）で開始した若年・壮年パネル調査、並びにそれ以前に開始した高卒パネル調査を継続して実施することが本課題の主目的であり、調査データは順次公開を約束している。このような本格的なパネル調査は日本では稀であるので、学界への大きな貢献となることは疑い得ない。東日本大震災に見舞われたにもかかわらず、困難を乗り越える方法を工夫し、3年分の調査を無事に実施したことは評価できる。</p> <p>しかし、クリーニング等に時間がかかるのでやむを得ない面もあるとはいえ、今期に実施した第5~7波の調査データを用いた分析結果はまだほとんど公刊されていないので、今後は分析面により力を入れることが望まれる。</p>	

【平成28年度 検証結果】

検証結果	
A	<p>当初目標に対し、期待どおりの成果があった。</p> <p>本研究は、若年者を対象にしたパネル調査研究を基に、教育、就業、家族、健康、意識といった多面的な側面を「ライフコース」の変容という視点から考察するものである。</p> <p>調査の継続性、総合性、学際性という研究上の組織運営とともに、比較可能性や公開性という視点にも十分配慮した研究となっている。全体として、「格差の連鎖・蓄積」という理論枠組みから、若年層の「ライフコース」変容のパターンを浮かび上がらせることに成功しており、研究成果は高く評価できる。</p> <p>今後の論文発表等によって研究成果の社会へのより一層の周知を期待する。</p>